

令和3年度事業計画

畜産・食肉産業を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時は大きく落ち込んでいた枝肉相場が回復傾向にあるものの、緊急事態宣言が再発令されるなど、先行きの不透明感が続いています。また、和牛はこれまでインバウンドや輸出、高級飲食店が中心だった販売先がスーパーなどの家庭消費向けにシフトしました。

一方、我が国の牛肉の輸出拡大が続いており、令和2年の輸出量は前年と比べて11.6%増の4,845トンになり、過去最多だった令和元年を大きく上回りました。今後もインバウンド需要の見通しが立たない中、ブランド和牛の輸出を強化する動きが活発化することが見込まれます。

このような状況の中、当社は食肉流通機構の合理的改善と広域的な食肉供給拠点としての役割を確保することにより、安定的に食肉を供給するとともに、食生活の改善に関する知識の普及啓発を行ない、もって食肉産業の発展と一般消費者の利益の擁護及び増進を目的とした活動に引き続き取り組みます。

令和3年度は、関係機関との連携を図りながら7,500頭のと畜頭数を確保するように努めるとともに、中長期経営計画に基づき、下記の取り組みを進めます。

記

1 牛の集荷活動

牛の搬入数を増加させ、食肉を安定的に供給するため、兵庫県内をはじめ、岡山県、徳島県、香川県などの畜産農家に対して直接訪問し、当社と加古川食肉産業協同組合及び加古川中央畜産荷受株式会社が協力して、牛の出荷要請活動を積極的に進めていきます。

2 施設の計画的な修繕

建物・設備が老朽化する中、定期メンテナンスを行いながら、緊急性があり重要な設備を最優先にして、計画的に修理・取替え等を進めていきます。なお、令和3年度の主な修繕予定は、次のとおりです。

- (1) と畜解体場及びせり下見室の空調機器の更新
- (2) 井水揚水ポンプの更新
- (3) センマイ洗浄機の更新

3 輸出施設としての認証取得及び販路拡大

海外での和牛需要が旺盛であることから、新たな輸出先の開拓が重要になっています。このため、台湾等への輸出施設としての認証を取得できるよう、部分肉加工場でHACCP方式による衛生管理の取り組みを進めていきます。

4 経費の削減

施設の老朽化による維持補修費が増加していることから、小規模な修繕について自ら対応できるよう、修繕業務を行う保守要員の確保に引き続き取り組んでいきます。また、令和2年度から取り組みを開始した光熱水費の予算の執行状況の掲示板への張り出しを継続し、食肉センターの多くのステークホルダーに対して、節約に対する意識の向上を促します。

5 地域ブランド牛の普及推進

高品質な地域ブランド牛である「加古川和牛」及び、安全・安心・手頃な値段の「志方牛」の普及に努め、特産品としての地位をより一層高めることで、地域食肉産業の充実を図っていきます。

特に、加古川市民を中心とした周辺地域住民に愛されるブランドとして普及させていくため、加古川市農林漁業祭、加古川市公設地方卸売市場の市場まつり、J A兵庫南ふぁーみんフェスタなどの各種イベントを通じて、ブランド牛の普及推進に取り組んでいきます。

6 収益事業の開拓

安定的な経営を行うために新たな収益事業を開拓する必要があることから、食肉製品の販売により売上高を増加し、収益性を向上することについて検討していきます。